



TITLE:

「合理的配慮」のために大学図書館
ができること～社会によりそう
大学づくりに向けて～<平成28年度
大学図書館職員短期研修 グループ
討議報告書 第1班>

AUTHOR(S):

上原, 秀平; 佐々木, 菜々; 松村, 悠子; 福永, 円; 藤上,
奈緒美; 上田, 夏実; 鰐部, 美香; 古賀, 京子

CITATION:

上原, 秀平 ...[et al]. 「合理的配慮」のために大学図書館ができること
～社会によりそう大学づくりに向けて～<平成28年度 大学図書館職員
短期研修 グループ討議報告書 第1班>. 2016

ISSUE DATE:

2016-10-7

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216936>

RIGHT:

This PDF file is under a Creative Commons license.
(<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0>)

「合理的配慮」のために 大学図書館ができること ～社会によりそう大学づくりに向けて～

テーマ：海外調査研修計画を企画立案する
1班（上原、佐々木、松村、福永、藤上、上田、鰐部、古賀）

本日の内容

1. 研修テーマ
2. 研修先
3. 研修概要
4. 期待できる効果

1 研修テーマ

テーマ名

「合理的配慮」のために大学図書館ができること

～社会によりそう大学づくりに向けて～

グローバル化支援と人材育成の一環として海外研修を企画した。

大学図書館の目的

大学の役割

教育

研究

社会貢献

図書館

収集

整理

保存

提供

必要な資料

利用者

障害者差別解消法

正式名称：障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律＜平成25年法律第65号＞

- 不当な差別的取扱いの禁止
- 合理的配慮の提供

施行日：平成28年4月1日

図書館における合理的配慮

－ 障害者差別解消法施行に向け－

(中略)具体的には、図書館のサービス環境が障害者の利用を妨げているときに、障害のある利用者が障害の無い利用者と同質的に対等な利用ができるようにするための、「**合理的配慮**」と呼ばれる個別の対応措置を提供することによって、実質的に対等な権利を保障することを、公立図書館と**国公立の大学**および学校の図書館・室に**義務付け**、**私立の図書館と大学**および学校の図書館・室には**努力義務**を課しています。

大学図書館としても
対応が求められている

国内の状況

- 法律施行より半年経過したが、まだ事例が少ない。
- 従来から取り組んでいる館は継続しているが、そうでない館は取り組めていない。
- 筆談への対応が不十分、点字図書・雑誌を所蔵していない。
- 方針・マニュアルも整備されていない。
- その場しのぎでの対応しかできていない。



北欧に潜む
平等な社会の
手掛かりを追え！



選定の根拠

- スウェーデン、フィンランドは国が主導して障害者支援を行っている
- 先進的な事例を調査するため大規模校
- 大学以外の図書館および機関も参考に

2 研修先

1. ストックホルム大学(ストックホルム)
2. ウプサラ大学(ウプサラ)
3. スウェーデン国立図書館(ストックホルム)
4. MTM(ストックホルム)

1. ヘルシンキ大学(ヘルシンキ)
2. フィンランド国立図書館(ヘルシンキ)
3. Celia(ヘルシンキ)

ストックホルム大学

- スウェーデンの差別禁止法に基づいて大学としてサポートのポリシーを持っている。
- 障害学生への支援を図書館を含めた全学的に実施している。
- コーディネーターが学生に対してアドバイス等を行っている。

【参考】

- <http://www.su.se/english/study/student-services/studying-with-a-disability>
- http://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/koudairenkei/__icsFiles/afieldfile/2015/11/04/miyakyo2_2116.pdf

Celia（盲人図書館）

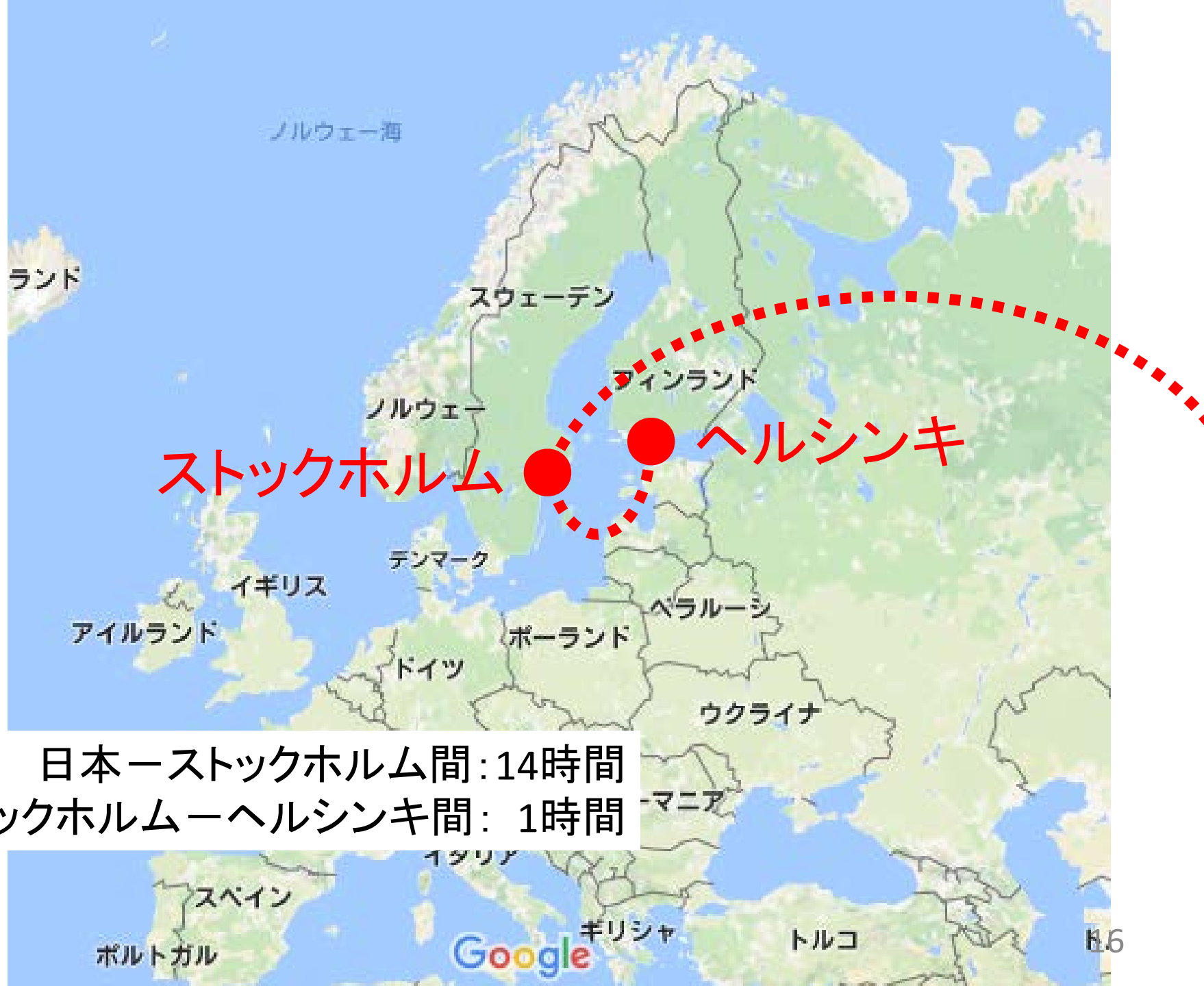
- 政府の資金援助を受け、視覚障害者に適したフォーマットで出版物を製作する情報源の役割を担っている。
- そのサービスはフィンランド全国で受けられ、ヘルシンキ大学とも連携。

【参考】

- <http://e-nat.org/finland/sisetu/celia/celia.htm>
- <http://www.helsinki.fi/kirjasto/en/services/study-library/equal-access/>

調査項目

- お金—予算、補助金
- 職員—研修、担当、専門知識(手話)
- 設備—改修しなくてもできること
- 各館におけるオリジナリティあふれるサービス
- 大学全体での取り組み



ストックホルム ● ヘルシンキ

日本ーストックホルム間: 14時間

ストックホルムーヘルシンキ間: 1時間

3 研修概要

日程：10月7日～10月13日（5泊7日）

旅費

	金額	計
航空運賃	\115,000	\115,000
宿泊代	\15,000 × 5泊	\75,000
諸経費 (交通費、食費等)	\60,000	\60,000
	総計	\250,000

4 期待できる効果

- 社会保障先進国から学んだ事例を用いて、合理的配慮について実践することができる。
- 北欧諸国では実践されているが、国内では難しい事例を日本国内に適した対応策を考えることができる。
- 大学図書館間の協力だけではなく国内の各機関や公共図書館との協力の例を活かす。

さいごに

- 研修のアウトプット
- 図書館内だけにとどまらない
大学や他機関を含めた
広いコミュニティで成果を共有
- 大学全体へのフィードバック

社会によりそう大学に

